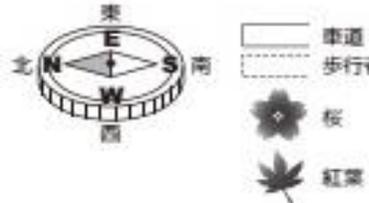


歩く、奈良春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA～周辺マップ
伝説の地をめぐる



三月堂(執金剛神)
～蜂の宮伝説～
平将門の乱の際、この像の前で朝敵降伏を祈ると、像から大蜂と蜂の大群が東に飛んでいき、平将門を苦しめました。それ以来、この像は蜂の宮と呼ばれています。



良弁杉
良弁僧正が二歳の時、近江の国で鷲にさらわれました。そして、この杉のてっぺんまで運ばれてきたのを南都の名僧が助けて、養育しました。良弁はこの杉を父母と思い、毎日参拝しました。数十年後、良弁のことを探していた母とこの杉の下で再会することができたそうです。



東大寺



南大門



鉄砲跡

手向山八幡宮
～菅原道真の腰掛石～
原公が「このたびは弊もとりあへず手向山もみぢの錦神のまにまに」と歌を詠んだときに腰を掛けた石と言われています。



奈良春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA～

庭園は昔、禰宜町でした。

春日大社と神鹿
春日明神が移遷の際、白鹿に乗って来られたことから、奈良の鹿は春日の神鹿と言われ、他の鹿と区別するため、焼印がおされたそうです。後脚に白い毛が生えているのはその跡だそうです。



頭塔
～玄防僧正の首塚伝説～
玄防僧正が筑紫で供養を行っている時、藤原広継の怨霊が現れ、体をばらばらにし、その頭が興福寺にまで飛んできたので、頭塔に葬ったそうです。

